

「ニルヴァーナ」

今秋、世界的パーカッショニスト土取利行と
インドネシアの革新的舞踊家クスモが会う。
伝統とコンテンポラリーを身に纏う
二人のアジアン・アーティストが遭遇し
初コラボレーションがここに実現。



Percussion×Dance×Art

土取利行 meets サルドノ W. クスモ



泥
ないおん
酒

出演：土取利行（音楽家、パーカッショニスト）Toshi Tsuchitori
サルドノ W. クスモ（振付、舞踊家）Sardono W. Kusumo

日時：2013年9月13日（金）19:00 開演 / 18:30 開場

会場：京都芸術劇場 春秋座（京都造形芸術大学内）

主催：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 企画・制作協力：東京文化会館

Percussion×Dance×Art

「ニルヴァーナ」-泥洹- 土取利行 meets サルドノ W. クスモ

世界的なパーカッション奏者、土取利行のパートナーである故・桃山晴衣（音楽家）が三味線で演奏を続けてきた曲『泥洹（ないおん）』。それは、ニルヴァーナの漢訳、涅槃を意味する。この曲を基に、今回、土取利行は様々な楽器を用いてインドネシアの舞踊との交響を目指す。そして、革新的なダンスを続ける巨匠、サルドノ W. クスモは音に呼応し舞踊絵画を描く。伝統を根とし現代を問い続ける二人が遭遇し創出する舞台をお見逃しなく。

小崎哲哉 (FREALTOKYO, 編集長/
あいちトリエンナーレ2013舞台芸術統括プロデューサー)

有史以前にまで思いを遡らし、全身全霊を傾けて公演を行う。宇宙的規模で思索し行動する2人が出会ったとき、我々の五官はこれまでに感じたことのない振動に直撃されるだろう。ダンスと音楽という2つの測深機は、身体性の根源にどこまで迫れるのだろうか？

高橋悠治 (音楽家)

サルドノはジャワ伝統舞踊の洗練の極致から、伝統への挑戦者である猿の王ハヌマンの荒ぶる身体に変身する。踊りながら発声し絵を描き、静寂から突然出現する熱帯雨林。アジア的時間の巡礼者・土取とともに創造する多次元空間は予測を越えるものになるだろう。

高木正勝 (映像作家/音楽家)

仙人のような、赤子のような、人でないような、まさしくこれこそが人であるような。開いて放って、そこそこに漂う微細なもののものが、欲び愛しみ、生き生きと舞い踊って、あれこれの境が溶けてゆく。土取さんは、実に豊かな源泉に触れている。

土取利行

Toshi Tsuchitori
(音楽家、パーカッショニスト)

1950年香川県生まれ。70年代よりパーカッショニストとして近藤等則、坂本龍一、阿部薫らと音楽活動を展開。フリーインプロヴィゼーション(即興)の鬼才として、デレク・ベイラー、スティヴ・レイシーなど海外の優れた即興演奏家とも演奏を重ねる。1976年より30年に渡り、ピーター・ブルック国際劇団で音楽監督、演奏家として「マハーバーラタ」「テンペスト」「ハムレットの悲劇」等、多くの作品を手掛り、世界各地で公演。同時に、音楽調査をかねて、アジア、アフリカなど世界各国の民族音楽を採求。1987年より郡上八幡に故・桃山晴衣と立光学舎を創立し、地元の芸能文化再生、古代音楽の研究、日本の芸能研究に取り組む。80年代後半よりアルバム「銅鑼」「磐石(オスカイト)」「縄文鼓」を発表。ダンサー、舞踏家とのコラボレーションも多く、田中泯、大野一雄、大野慶人、韓国を代表するキム・メジャとも共演。著書には、「縄文の音」「壁面洞窟の音」がある。近年では、添田唯輝坊・知道等、明治大正の演歌の演奏・研究にも力を注いでいる。

サルドノ W. クスモ

Sardono W. Kusumo
(振付、舞師)

1945年、インドネシアジャワ島の古都ソロ生まれ。幼少より古典舞踊を学び、ニューヨーク滞在を経て、60年代後半より伝統と現代を融合させた意欲的な作品を発表。その活動は、演出家、振付家、舞師、映像作家、画家と多岐に渡る。1970年代後半より、「メタエコロジー」(1979)、「プラスチック・ジャンクル」(1983)、「嘆きの森」(1987)等、環境保全への強いメッセージを発信し、世界を舞台に活躍。「マハーバタ」(1988)や植民地支配とジャワの精神世界を語った「ゴングの響きの彼方より」(1993)等、アジアにおける最先端の振付家の一人として確立され続けている。シャイヨ国立劇場(パリ)、ヴィラ・メディチ(ローマ)、パフォーミング・アーツ・フェスティバル(シンガポール)等で公演を行い、世界を舞台に活躍。近年では、色豊かなペインティングとマルチメディアによる公演「雨の色彩の森林」(2010年)をロサンゼルスで開催し大きな話題に。インドネシアジャカルタ芸術大学にて、後継の指導にもあたっている。

一般 3,500円 シニア 3,200円

京都芸術劇場友の会 3,000円

学生 & ユース 2,000円

瓜生山学園生 1,500円

6月26日(水) 発売

※ユースは25歳以下、シニアは60歳以上 ※シニア・学生・ユースは要証明表示
※未成年児童のご入場はご遠慮ください。

チケットのお申し込み

京都芸術劇場チケットセンター

TEL: 075-791-8240 (平日 10時~17時)

劇場オンラインチケットストア

パソコンから <http://www.k-pac.org/>

携帯電話から <http://www.k-pac.org/theatre/m/m>

※要事前登録(無料)

● 電子チケットびあ Tel 0570-02-9999

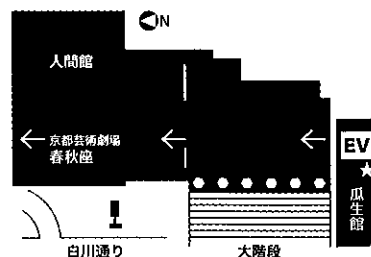
Pコード: 203-957

● イープラス <http://eplus.jp/>

● 京都・滋賀各大学生協ブレイガイド



- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、
「上総町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
 - 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204循環に乗車、
「上総町・京都造形芸大前」下車(約15分)
 - 京阪電車出町柳駅から
観山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分
- ※駐車場はございませんので、お車・バイクでの
ご来場はお断りします。



大学大階段棟にエレベーターが新設されました。白川通りから劇場1F
(人間能1F)へは、新設の瓜生館エレベーターをご利用下さい。
※車椅子をご利用のお客様、足の不自由なお客様は、お電話にてお申込み・
お問い合わせ下さい。075-791-8240 (京都芸術劇場チケットセンター)
※当劇場2階への移動は階段のみとなります。